

## 「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果と学力向上の取組について(お知らせ)

保護者の皆様におかれましては、平素より本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本校では、生徒一人一人が学習内容の確実な定着を図るとともに、仲間と協働して課題解決に取り組むことができるよう、指導方法の工夫改善に取り組んでおります。この度、3年生を対象に4月に実施された本調査の結果分析を行い、本校における取組について改善の方向を取りまとめましたのでお知らせします。

なお、本調査が国語、数学に限られていることや、テストだけでは把握することが難しい学力もあることなど、調査結果から分かる学力の実態は限定的であることについて御承知願います。

## 1 調査の内容について(対象学年:第3学年、実施期日:令和6年4月18日)

教科に関する調査	国語 数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等</li> <li>知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等</li> </ul>
質問調査		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査</li> </ul>

## 2 教科に関する調査について

## (1) 結果分析

## 概要

- 数学の平均正答率は、県平均、全国平均を上回る結果であった。
- 国語、数学ともに、無回答率が低く、県及び国の平均を下回っている。
- ▼ 国語の平均正答率は、県平均、全国平均を下回っている。

## 国語

- 「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す力」や「具体と抽象など情報と情報との関係について理解する力」の正答率は高く、県及び全国平均を上回った。
- ▼ 「必要に応じて質問しながら話の内容を捉える力」や「文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈する力」を問う問題の正答率は、県及び全国平均を下回った。

## 数学

- 「与えられたデータから最頻値を求める力」や「筋道を立てて考え、証明する力」の正答率が高く、県及び全国平均を上回った。
- ▼ 学習指導要領の領域別では、「関数」の正答率が低く、県及び全国平均を下回った。「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力」を問う問題の正答率は特に低かった。

## (2) 授業改善の具体的な手立て

## ◆学習集団づくり

- ・ 学習姿勢の向上に生徒が主体的に取り組めるように、学習委員会や教科係会が中心となって、「授業前学習」等の日常活動を計画・運営したり、生徒会取組を実施したりする。
- ・ 学級の誰もが安心して学級に位置づき、学習や生活に臨めるように、かがやき見つけ等で仲間のよさを認め合い、自由に自分の考えを話すことができる集団をつくる。

## ◆周りの意見を聞き、生徒が自分の考えを広めながら、学びに向かうための学習活動の工夫

- 一人一人が自分の考えをもてるような発問、資料を準備したり、ペア交流や小集団交流の機会を意図的に位置づけることで、自分の考えを説明したり、仲間と交流して意見をまとめたりできるようにする。
- タブレットを活用した資料提示や意見交流など ICT を活用した学習活動を工夫し、主体的に学ぶ姿を引き出す。

◆学習内容が習得できたか確かめる評価の場

- 授業の終末に、学習内容を復習する時間を設けたり、自分の言葉でまとめたりするなどして学習の定着を図る。
- 学習内容を深めることができるよう発展的な学びを示唆したり実生活での活用を助言したりする。

(3) 家庭学習の指導

- 「生活記録」と「自主学習」を毎日提出できるように指導する。
- 教科のワーク(副教材)は答え合わせまで行うように、活用方法を指導する。
- テスト後には解き方や学習方法の指導を行い、理解が不十分だった内容を身に付けられるようにする。

3 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査について

(1) 調査結果について(抜粋:「あてはまる」と回答した生徒の割合)

質問項目	本校(%)	岐阜県(%)	全国(%)
自分には、よいところがあると思う。	○41.9	42.3	40.4
学校に行くのは楽しいと思う。	◎55.8	43.4	43.5
先生は、あなたのよいところを認めてくれている。	50.0	50.3	44.2
将来の夢や目標を持っている。	36.0	37.1	36.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	◎84.9	81.0	77.5
人の役に立つ人間になりたいと思う。	◎77.9	70.8	68.6
友達関係に満足している。	◎69.8	55.6	55.0
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、一日当たり3時間以上勉強をしている。	○19.8	12.2	9.2
普段(月～金曜日)、一日当たり4時間以上携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしている。	△31.4	17.2	18.2
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。	○41.9	34.9	34.0

(2) 結果分析と今後の取組について

- 「自分にはよいところがある」は全国平均を、「学校に行くのは楽しいと思う」については、県、全国平均を上回り、4割から5割強の生徒が「あてはまる」と回答している。自信をもって肯定的な回答をする生徒が増えたことは、自己肯定感を高める学校での取組、家庭での継続した認めや励ましなどの成果として認められる。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」や「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「友達関係に満足している」について、肯定的な回答をする生徒が多いのは、人権教育の充実やかがやき見つけ等を通して、違いを認め合い、分かり合って協働できる人間関係作りを進めてきた成果が出ていると考えられる。
- 学校から帰宅後の過ごし方については、学習に取り組む(学習塾や家庭教師も含む)生徒が多い一方で、SNSや動画視聴に多くの時間を割いていることがうかがえる。睡眠時間を確保したり、朝食を必ず摂取したりと、生活リズムを整える指導を通して、身体面・学習面・情緒面での安定を図るようにしていく。
- 携帯電話やスマートフォン、コンピュータ使用についての回答は、県及び全国平均の値を上回っているが、家庭での約束づくりだけでなく、校内で活用するタブレット端末についても利用方法について生徒自ら考える機会を作り、情報モラル教育の一層の充実に努めていきたい。